

1 主題名 心を込めて 1－（4）明朗・誠実

2 資料名 「ごめんなさい」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

「ごめんなさい。」は「ありがとう。」とともに気持ちよく生活するために大切な言葉であるが、残念ながら素直に言えない子どももいる。現代は、核家族化、少子化、戸外での異年齢集団での遊びの減少などの社会的要因もあり、望ましい社会性を自然に学び体得していく機会が少ない。その結果、自己中心的になり、相手の立場を思いやれないのである。「ごめんなさい。」のロールプレイを通していねいに指導し、日常の実践にまで生かしていきたい。

(2) 児童について

(略)

(3) 資料について

本資料では「ごめんなさい。」という場面と、言わない場面を設定し、それぞれの気持ちを体験させる。「ごめんなさい。」は、言っても、言われてもすっきりしたよい気持ちになり、言わなかったり、言われなかったりすると嫌な気持ちになることを実感するだろう。子どもたちは、頭では「ごめんなさい。」と謝ることを理解しているが、実際には、その時、その場で言えないことも多い。そこで、分かりやすく、またより実践へつなげるために、ロールプレイを取り入れ、「ごめんなさい。」と心を込めて言うことが大切であることを考えさせる。

(4) 指導について

本校の今年度の研究主題は、「未来につながる力をもつ子どもの育成」である。近年、特に対人関係スキルや、コミュニケーションスキルが重要視される社会において、児童が学童期に、友達との様々な経験や遊びを重ね、社会的なかわりを広げていくことが未来につながると考える。また、過ちはだれにでもあるが、過ちから学び、過ちを次に生かしながら成長していくことも大切である。心情面からのスキル習得をねらい、道徳で計画的なソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、将来円滑な人間関係を築くことにつなげていきたいと考える。

また、事前にアンケートをとり、素直に謝れなかったり、謝ってもらえなかったために嫌な思いをした実際の生活場面を再考する場面をとりたい。

4 本時のねらい

過ちを素直に認めることにより、共に気持ちよく生活しようとする心情を養う。

- 5 準備物  
場面絵, 感想用紙

6 本時の展開

過程	主な発問・予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気 付 く	1 三つの場面を一つずつ提示し、こんなときどうするかを考える。 ・ノートを拾ってなおす。 ・「ごめんなさい。」と言って謝る。 ・「大丈夫？」と声をかけ、手助けする。 ・謝らなくちゃと思うけど、謝れないときがある。 ・「わざとじゃないよ！」と言ってしまう。	・絵から想像させることによって、状況に関心をもたせる。
考 え る	2 一枚目の場面を実際にロールプレイし、気持ちを考える。  3 二人組をつくり、ロールプレイをして思ったことを発表する。  「ごめんなさい。」と言われたときと、言われなかったときの気持ちはどうか。  ・謝ってくれたときは、許してあげようと思った。 ・いい加減に謝られるとすっきりしなかった。 ・謝ってくれないとき、文句を言いたくなった。  ○「ごめんなさい。」と言ったときと、言わなかったときの気持ちはどうか。 ・謝らないとなんか、嫌な気持ちがする。 ・謝ったほうがすっきりする。	・初めに担任がロールプレイして見せ、やり方を理解させる。  ・「ごめんなさい。」と言うだけでなく、言い方はどうか考えさせるため、小声で言ったり、相手を見ずに言ったり、落としたものを拾おうとしないような言い方もして、適切な謝り方と比較させる。 ・素直に謝られた場合、どう答えてあげるとよいか考えさせる。
深 め る	4 アンケート結果をもとに、以前に体験した実際の出来事について考える。	☆「ごめんなさい。」と言ったり、言われたりすると、気持ちよく過ごせることに気付くことができたか。(発言・感想用紙)
見 つ め る	5 今日の学習の感想を書いて、発表する。 ・わざとではなくても、嫌な思いをさせてしまったときは、素直に謝ろう。 ・「ごめんなさい。」は、気持ちを込めて言おう。	・書けない児童には、今までの生活を振り返らせたり、これから自分がどうしたいと思ったかなどを考えさせたりして、感想を書かせる。
高 め る	6. 教師の説話を聞く。	☆「ごめんなさい。」は、そのときに気持ちを込めて誠実に言い、仲良くお互いが気持ちよく生活しようとする気持ちをもてたか。(感想用紙)

7 授業の観点

- ・「ごめんなさい。」を言う言い方や、言わないいくつかの場合を変えて行うロールプレイは、素直に過ちを認め、ともに気持ちよく生活しようとする心情を養う上で効果的であったか。